

安永三年  
 孫徳俳諧集  
 全



5  
 1818





七十  
五  
年  
親  
和  
筆

茶  
箱





安永三 甲午 歳

元旦

名月小亭 楽一 駒を初影

自在菴 祇徳



窓此 徳有 色今 白乃 水祇井

窓の角心 吾春 此九 卜て 治嶺



行年八十八 豊 暗朝画



桂下窟

新こなる門のこりや松乃春 沾嶺

御馬具長閑に飾る士位弱

祇徳

節季けの追けけ種の可き色全

偶ニギキレウ人も歩り行とこ我よまま心心人全



峯月菴

元日の障子明きハ東山 祇喬

春乃始に御飾馬

祇徳

窓の手の乃乃解りや餅餅延延 全



元日乃翁後一白馬花 祇在菴 甘棠

御馬場此去や色の驪

祇慮

少波乃矢よりも早摺并此勢 全

馬羽至此夜ふ此翠公廉淺る柳 全



秋香齋

梅の来亭初日と梅の香も 全 傘露

柳庭長閑き弱下詠の言 祇慮

高くと雪解の比良波笑が 全

うる妻も炬燵をる神々 全



邦虫画

初日六の光もくわーの春

銀鷲

千里一步乃却赤系始

祇徳

申くても人くちほくふ年の市

全

日ゆくりふめうねほつた梅の花

全



桎能老耳海能老在千代之春

星々庵

祇井

御居間長閑喜御象戲之駒

祇徳

市人や世と大るゆ飾海老

人工

舟盛乃海老と係り梅の花

人工



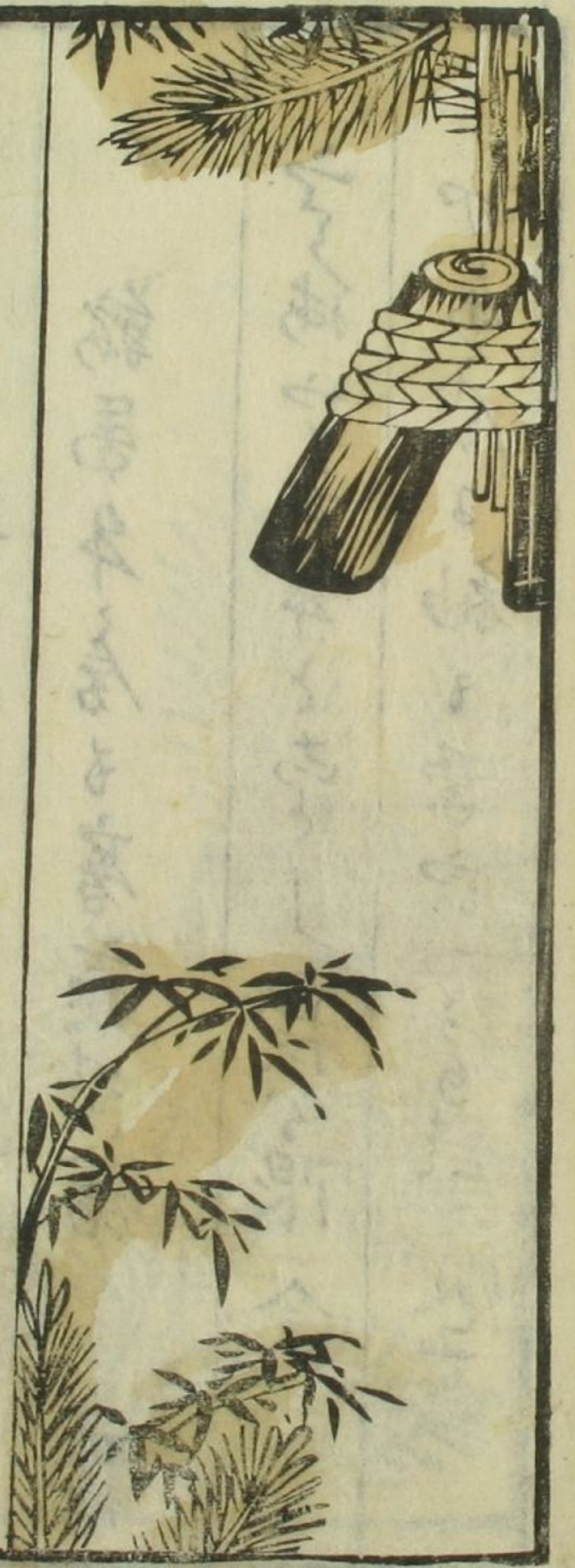
自在庵の門に入る祇旭齋遠帆館

門よさる旭の影や今朝の春祇旭齋 芝海

市名水乃跡よ多馬河 祇徳

神學と傳授古竹筒をきりてて居る一葉度全

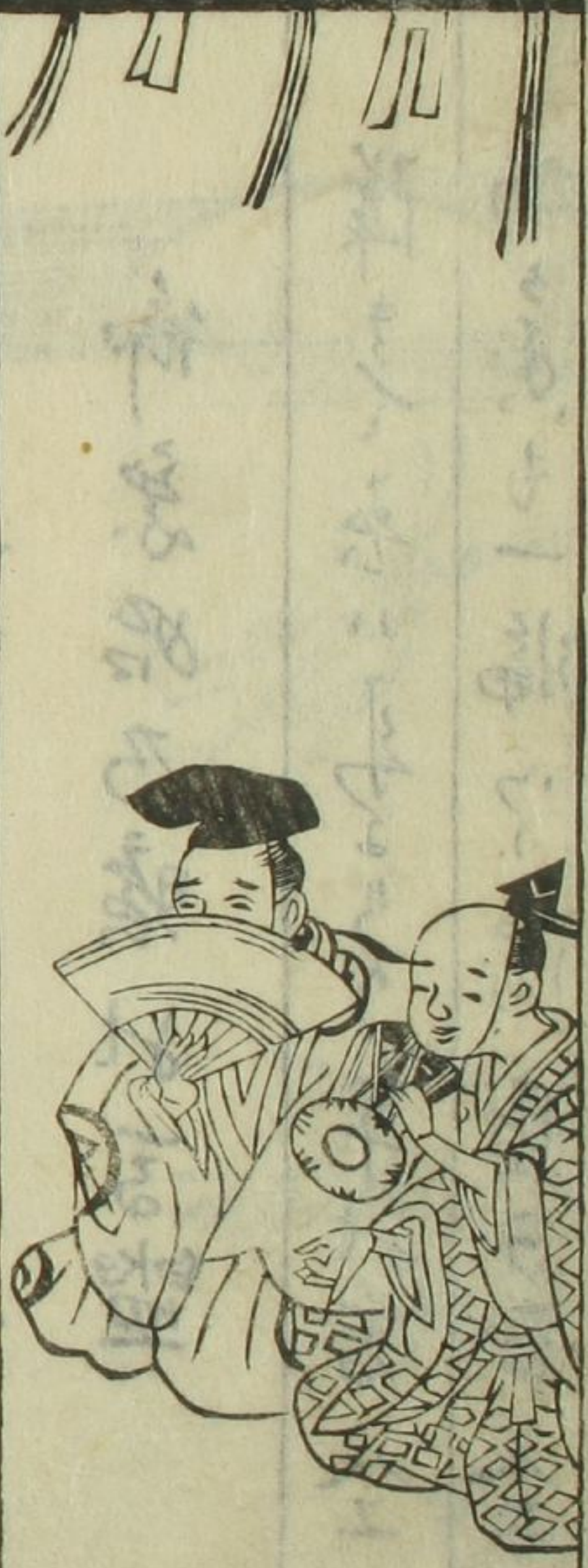
遠月鏡出せよ遠くはる茶摘全



初空る千代のまある門の松 然鳥嬌

御家始乃曉れる盟 祇徳

降まて去ハハ子より年々善人  
 揃うまも一編の徳盛なる人



美早亡千代の指室に柱建 祇風亭 瀾長

鞍馬牛房も屠蘇に老 祇徳

さあや去年とあ〜〜枝分限全

卯東の袖も孕戸のふき〜 全



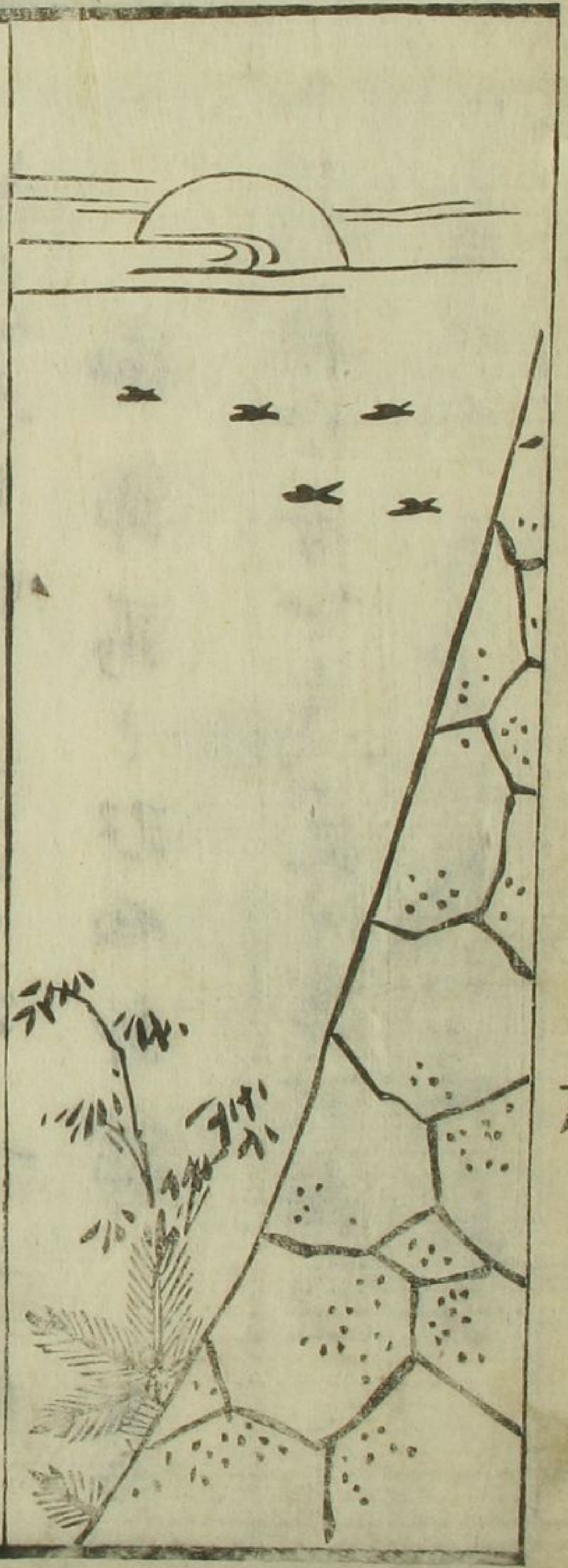
松の葉系馬帽子きらく卯日 朝陽館 木子蹊

御飾馬と双奴御飾 祇伝

庭鞠や音とま〜〜年此餅全

妻川や東の〜〜枝折の梅又船全





松の中ふき多る居つ城の春 亀文

御幸馬や午れえ日

祇傳

系ものよきと先れ侍夜が全



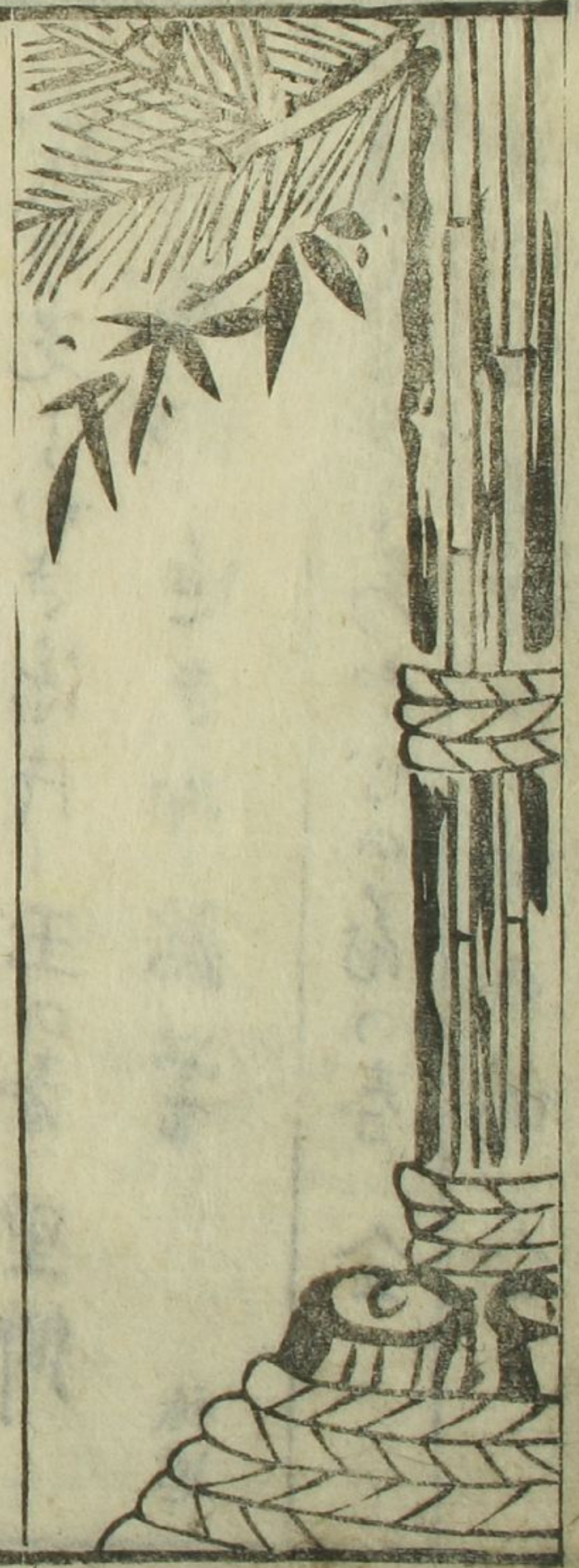
代の光ふかき係片玉の春 里郷

約郊<sup>コマ</sup>迫き御館<sup>コマ</sup>嘗

祇傳

高起るもしまつや心の花の春 全

于以采七種や神の場 全

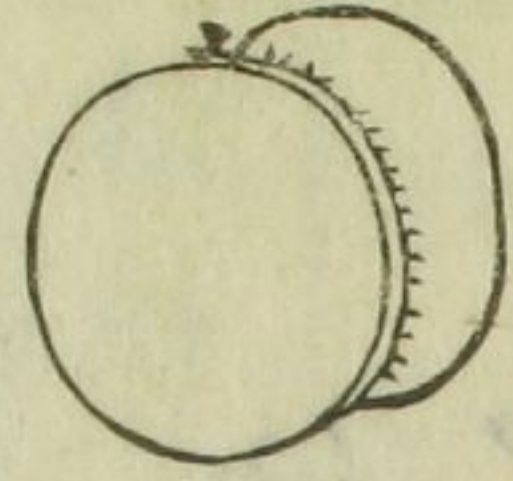


松竹のちりも姉一の朝 峯扇

白馬津乃即船系始

祇伝

笛を吹くまもつかふ 舟の音 全



高足乃鞠と初日此なるま 喜久山 祇貞

御樓のまあ時終る 駒蹄口

祇伝

去りまのま度も出まの鞠より 全

興 高



松お小梅も流しり思ふ夢

祇徳

納む飾よ舌と出ま牛 祇城

長深さハ夢に孫とありて 順翁



松竹よ約のりあや卯口の出 百の初園 伯貴

祇伝

く〜れくちよ女の松子ハ梅の笑 全



見よものふ歌ありハ今朝の笑 お月堂 一松

法信

人斗今と〜此ものハ市二日 全



三々の律 空ふ茶ふーと野の春 祇貫

御花のふけきる鹽の傳 祇貫

たある来と賣ひらふり市二日 全



祇柏改



寶ふむふふ名ふあふ玉れ花の春 清矣

白馬金鞍 御門長閑き 全

所ありの箱ふれふもち柳 全



比白杯婦君は又子れ御座が 祇晶

儀式調ふ日も永田馬場 祇清

二日ふり掃出ふ茶の 大 晦日 全



舊帽子と男人の稀く和七城 吳來

飾り五色御紫馬れ春 祇清

頭巾と男人の稀く年々市 全

新  
春

みづささぎ 枝もふえ多り松の春 祇翠年

勇む御殿の節は梅

春とまの金乃多きりや除夜静 全



大福の紅紗は色も江戸の女 水光吉 龜時

御喜笛乃梅も瑞々

より侍福袋のともふりまあ 全

水信



卯空の明ひりり糸帯もまゐい春 如月信 翠長

機あゝ〜 饅頭 卯 風

水信

貴物に奉紙く〜 年れま 全



卯雞の眼子角のふい人斗 吳明

下馬紙や〜 小市を城の春

雞もあゝと侍を除夜の宗 全

水信



萬物之度余ありの元の妻 青々

御画始みせきとる七勢

あまの年乃儀戸帆子帆子帆全

全



あゝあ乃於合やあ方物 芦舟

御臨望長閑寸馬豆人

全

あゝ舟の儀も師まが全



雅山舎

あ乃青乃笑都戸福妻子 祇城

御正夢れ午乃え旦

全

人の字も皆さやくくく忘 全

全



幽篁舎

遠茶とわさるや仙乃心 茶 腹翁

張果老とハ御意れ画始

全

餅搗もあハ一とてを柳 法

全

茶畑にあまのちる蝶の花惑心

全



大の字より張もよ組饒三子

景下ともさりん即家考約

新室ハ春まのまう一松と竹全



考約は足も呼吐も四曲波 祇莊

福も甲乃水飾甘果

魁乃妻ハ海走は乃巾全

水信



妻乃乃花より姪一今朝暑 桂花

珊瑚は鞭も却饒竹

水信

手はもふ舞の罪ハ雷かろく全



山し乃妻の種ハ飾 菜女 淵魚

春ハ白馬ハ乃却物是の葉

水信

笑まハ逃俗乃宮ハ匠ハ全



屠蘇を先程しくく年 男 祇月

次子よ留貴山馬宗始

み佐

着飾ハ茶と正月のまゑが 全

くめくまやまけハ流る川ハ格 全



賽の舞も駒川線ハ神の姿 柱下

舞ふるところハ神宮の御酒

み佐

まきくく大西も舞 全



天地の中ハまきくハ福妻物 乃十

画始序馬乃御乃中

み佐

酒物乃舞と并つハ年のまゑ 全



世もまきくハ兼代ハ神の姿 乃十

御淨始乃ハ法ハ 駒

まきく

まきくハ舞はく碎り舞年のまゑ 全

全





今朝や難愛其式古き加定喰 龍成

却吉日波お馬始り柳

ひと業れはもりて千代乃雪の松全

社入る雀頭く火梅乃 園全



くふさも在奉はる亦葉の和意者 仙美行

午波る白ふ水結さけ梅

本のもろのもうそふ年ははる山全



と高始も千代乃松子や年は矣 祇霍

御酌の丸お梅よ柳よ 紙位

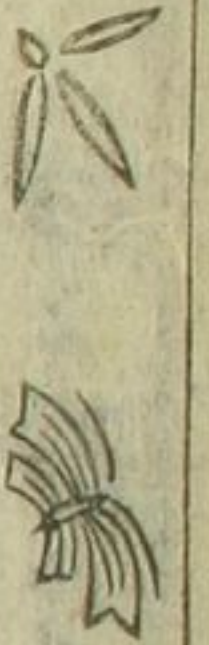
後種も春さつ種や梅の災全



和歌の世や月雪満く花の春 紀春

柳虫るも押虫入日れ棠 紙位

望むくち梅るれ梅もうる全



追加

文調画



ハハ在而まを運め

芳名

蝶を此江戸幸運うーソ花徳春魯笑

御傳る福を御年始乃式

祇愿

蝶もも任文や事川春や侍工

蝶もももも事や梅のま工



自大庵

書始哉嘉例能壽之字福者内祇叶

徳茂寛二御家蓬菜

此作

吉友乃松竹梅よーく妙如



妻美のほろ羽もつては玉の妻 祇紅

中を色もつつきえ日乃天

此作

ヤリ羽も枝ももももめ花



土器ハ福壽すまゐるここの朝  
松竹梅子 いろいろあはれ  
おもしろきとまゝやうやくや鏡研  
さるも此書も世枝の味け

軸

君の代亡お日と松と門の振  
赤貝もゆるも中子寶船  
早きも御程もあつらん徳の種  
こゝろこ葉雀もつむん破つる

祇箱

祇位

元日小立多きもの戸内裡籬  
房蕨と祝ふの跡乃公内  
友ハ塔片く寄つたらう小  
松堂の免れ年々成り  
乞籠を月ハ涼き楼船  
ちろろ月換もふくし  
加多ふ枝や下駄まよき善と云  
河屋乃嘘ハ天下晴多り  
井戸替乃戸板の七井戸の徒  
千住ハ餅乃郊多るへ  
鷹道よきのあも庵裡と居ん  
二物屏乃代手籠り也

祇徳 丸室 祇亭 馬清 祇汀 雅徳 沼木 玉鬮 秀敏 橋雲 秀義 亀岳

仕奉ふは此妻耶ふ土用子  
市下至生ハ江戸に引以戸  
主も尼家来も尼の家隨を以  
是閑よきき一一月といふ奇南  
勢ももも密も芳は花の家  
土名子乃妻の影を虎杖  
其癖よ強力所ハ薬乃を此若  
其門云は即最負は寺  
岳海乃もよあそくもさの  
油揚実々くやきと怖  
新道よ二朝并く困れぬ  
原氏伴物のまよふらん

持雪  
故道  
祇言  
楮徳  
其扇  
玉容  
祇十  
湖沢  
祇柳  
亀永  
祇船  
昌橋

大称五乃昔終ハ隣村ハ水きハ  
丸家ノ亭清き通一矢  
息々ハ先志終り彌嫌ハ  
十一月乃古四口月  
極本屋ハ巻岩乃天宗學合  
信玄此名ハ年當りさ  
紐術の師乃舞ヲ取柔術の師  
城下乃館情隠一所 建  
從経ハ三法集りかくも  
俟揺成リ徳初乃正月  
實とむま雜考の上ハ花鑑  
亭主此西流當此引

祇白  
祇勇  
祇朝  
祇英  
田鏡  
白抄  
祇貞  
橋友  
松架  
枝靜  
成美  
松魚



祇船西

元日一位増々松色女千林

御画馬の敷も梅の御籠也

祇徳

妻の侍門しるき岸乃松全



門ぬえる雲の機嫌戸千代の美女沾鳳

五色の光る御籠也

祇陸

いと遠ん宮住吉乃門飾全



新しき殿乃儲や千代の春女沾玉

御金屏乃長閑の御馬

祇治

房の包是し沙衣の調度が全



萬葉の別し空を乃居り女沾翠

御弾始乃竹馬れ唄

祇徳

梅も子れ春へ登く己年の豆全



枝も糸も千代と繁りく華は春

女 治光

柳子舞も提灯割つ大あ日

女 治光

帆の彩は旭と愛川市代の春

女 治光

長累老弱も仕こを女支度

女 琴柱

子濱を屠獲乃正室や家の富

女 琴柱

子寶れ宝はく一ウ衣 配

女 琴柱



玉の井は釣針得る屠獲の美

吐屑



萬葉や柳葉乃屏る山笑婦

女

翌日や衣くく終竹乃第一重

祇月

立多乃詠よみく雪雪つら

雀も糸袖は旋少戸きせらめ

女

年の尾や門は春と松の夜今

祇蝶

万葉老柳の糸乃 虫ホウカ

初空乃の井は雀乃遊る女

女

年の尾も静りき老鳥の歩が

祇紅

梅うまはは色立る月の白ら



万物れどしき始や茶盒子 冬圍吉  
板木屋へ年の余慶乃歩む 萩窓猪徳



松多てく手ふ多富士や家も福替 春待菴  
花多乃間れ舞 祇亭  
ち川寅乃至是小判や人の足



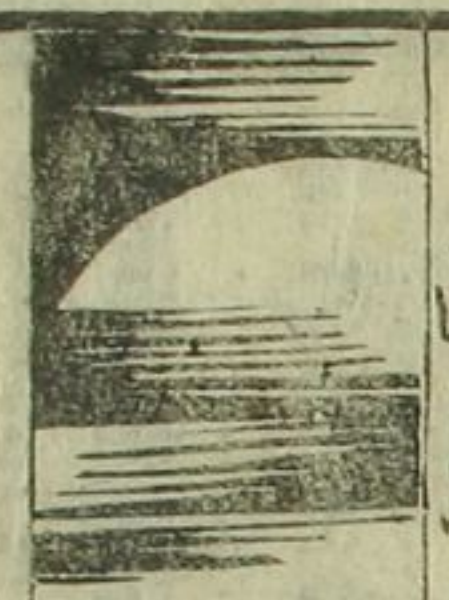
休多よ玉乃雪くや門の春  
鼻くくくく神ふくくく年暮ぬ  
窓とやふくくと樹乃白う那  
北葵



七五三繩とけけ乃き終尾や赤の甚  
餅片きやい華の難も梓の上  
菅原雛乃ききまきりやササ 餅山



三ッ組乃土器町や千代乃 春  
鞠酒や大曲日も松 檜  
土器系乃輪ぶもいくつ日や永 祇



臣ふ後年来俳ふと作一々先生乃門下人  
效もくくく一未修の修乃く止ぬ先生今偉  
情と垂砂多貼乃未修の修乃く止ぬ先生今偉  
もく黄金と得くも脚んを



人並くや赤茶も照く也 祇  
門おと横くく 言入る半葉が 祇  
者くけくくく する他の桂う那 祇



若くは昔の代飾 呼ぶや産と名  
若くは昔の代飾 呼ぶや産と名

松架



あつらひお生所乃 松うらや  
灯も夜乃 綿や 大晦日

枝静



郊が細ユハ 華乃 江戸は春  
大糸乃 雅乃 如や 筆は小糸

秀砂

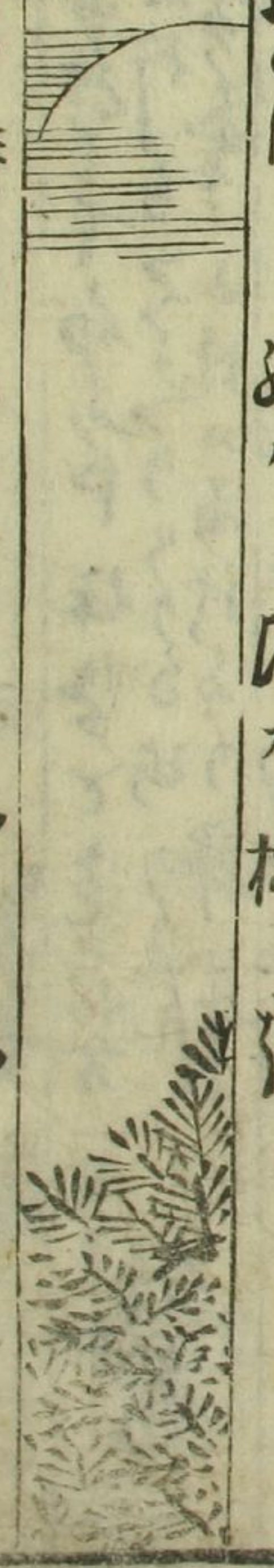
くわしと 硯の止や 毒乃 花  
十為盤乃 玉の去ま 大晦日

浮雪



湯をよこし 体つよ しみ  
年の尾と くり片く 名若 越 斗  
おのけつ 結り 乃 柳 乃

玉宮



松樵乃 色青しと 御日の  
つゆはるるもの 真中の 腫 月

昌喬



嘉例之歳旦

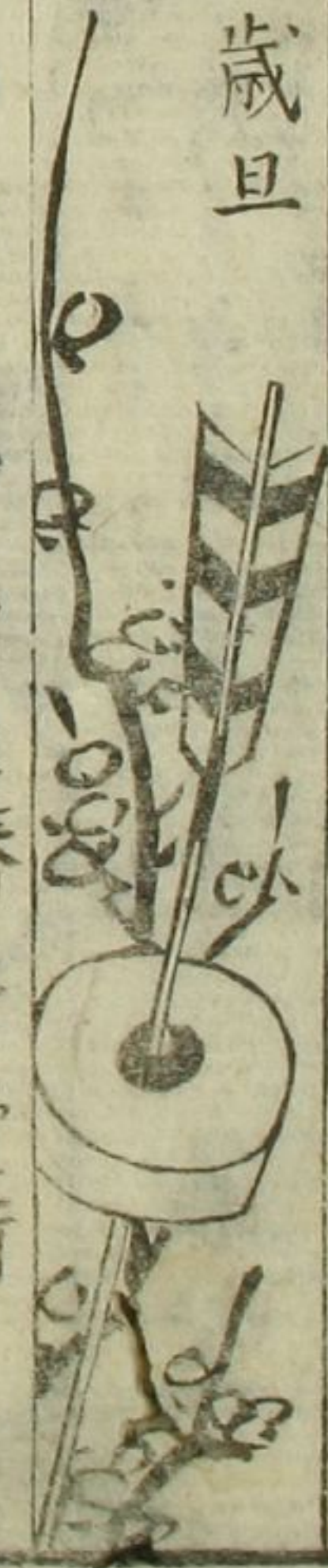


多勢を定むる方  
西行もそのりりり  
高より年よ焼ハ所  
飾り

東音甫

竹苞

以一字為歳旦  
亦為春興



運も亦と云ふ  
春越待門能榮  
彌賀佐里海老

紫豊軒

祇汀



る士さんの水袋  
卯や乙の節  
あきことと云ひ納り大晦日

市原氏

友心



卯雞や  
少の  
室引

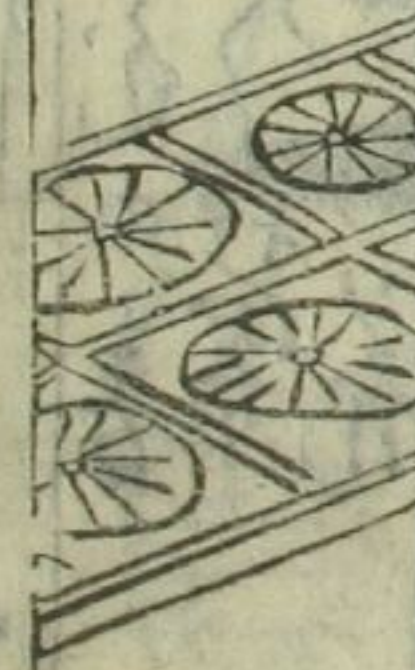
祇洞政

馬清



吐  
群

祇孝



糸小香  
人  
今

伯始



一星見たり急戸の如  
帆の影も秋の暮  
影も揺る女も裁多り  
おぼろ

秀義



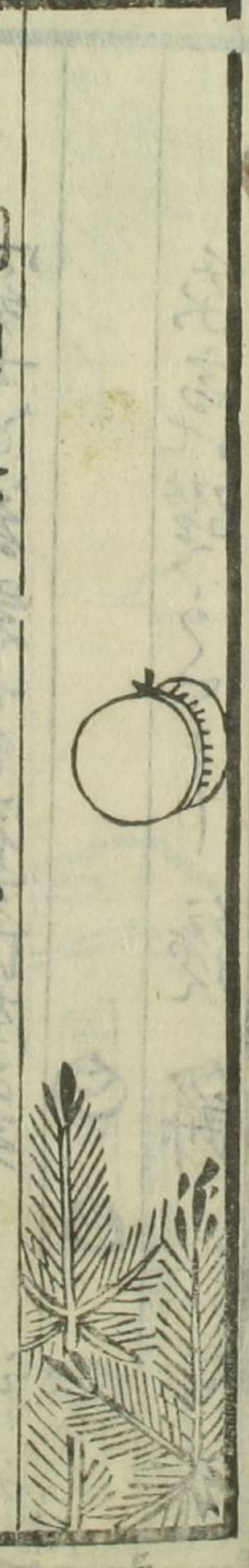
陸奥乃金きんの腰ものひり人年の市  
継ゆは継つぎとくけりあまはま

祇木



年立の衣も六十二度おぼこ  
朝起の日藪はもろく斗あき

梧栖



鞠垣ハ松まつのめり年一四才女  
とく是乃去いちやうく年の鞠

祇白



嘉例吟

金屏も未廣くハ松の去  
御師みしの葉原はの時ときも葉の年としの葉

雪更



帆の影も秋の暮  
旭あすの鉄砲洲てつぱうが年の山岸

亀岳

赤穂

入日戸めて多きよと産のふ年

秋葉

亀乃春日よふやせしきものや松飾

楚山

酒乃海を乃朝日千代の春

祇幸

めでたハ申あもくや唐藩の味

磯富

酒の徳先唐藩よりをそそり

葵吉

此宅戸ソ花乃春迄乃綱比鳥

大萬家

◎◎◎

試る糸口返一唐藩の道

三省

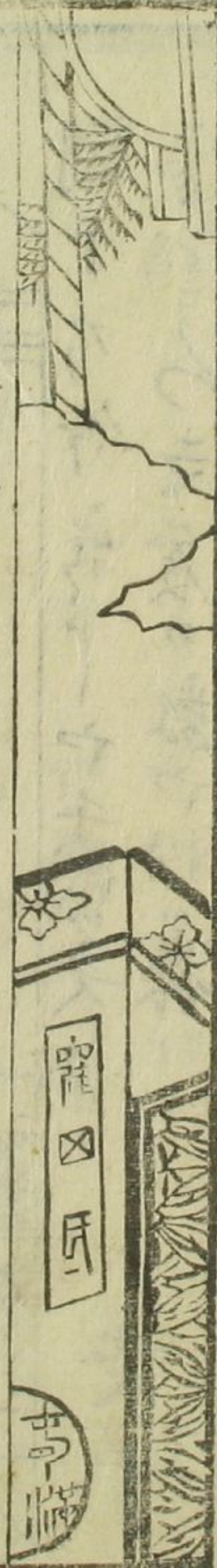
多士とあえても多士や衣の美

祇表

◎◎◎

糸富此礎う一鏡餅

斗龍



大庭間金屏より戸明の春  
梅の世にくくくすのとき時ワリは

東川

金屏ハ溜乃向うとこの朝  
七を賣も加例ヤと此市  
夢れしゆと喃いと緯の梅

秀幸

車并乃一夜の借一今朝の夾  
鏡檜のへははくきて春の霽  
うめさく戸ワの茶踏く亀戸道

春満



今朝よりハ身身く千は春  
春路と乃小松竹のくは

竹賀



学此遊身もやー梅、春  
まのし通き頃も一まや年の梅

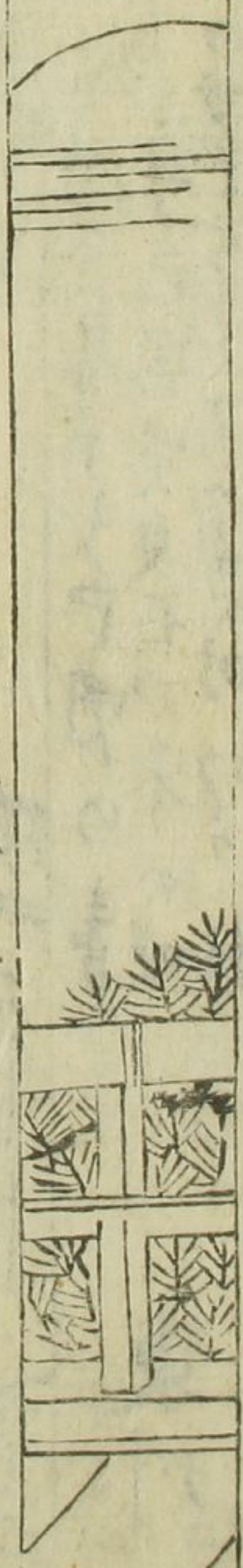
李長

女子二人おても  
春男と備る



松や男竹も笑代門の去  
くれ屋や頭くく社き

祇十



欄干乃竹新しや千代の女  
まのし支度の敷や松の振

柴十

吉例乃書き茶筌や飾竹  
まのし和申揃き亡席の金

カリん



節もく山任連乃繩や老若  
生るまのし許と斗木獲

玉蟾

餅酒をいつまの月の始か  
卓子乃勇者告い大世日

玉時雨



明初る春夕の吟や海壽州  
其人の吟めい夜配

羊秋



七十五

賣和や政常錦とほかきとめ 亀永

吹戸此花まつ 陽夜の手書者

一斗乃花の長より 福吉村 女東朝

梅灯のらハ代宮よ御代の女 古客

山橋

文日六岩戸のひくく 吉らもち 山橋

金槍よあふハ八テ芳花ち海日 祇柳

昔陽の色ハ 柳と時津の

ゆきくと 餅と花咲く柳

お模會と信 匠 龍一



松竹乃永組より 一斗の女 九胡

大 榎 王千工ノ開ち 柳橋

長尾 辰子 妻とあやゆ 柳橋



明ぬ終ら守も長閑き 卯日が 歌京

春とさつ 玉と月を 玉の春 洲竜

柳無くく 玉と月を 玉の春 洲竜

ともつ 柳や大内山もく 宮巡

いく年も 替甲の如く 松節 葵芝

春乃乃 妻とあやゆ 柳橋

高乃 未と居るの 花の妻 近久

七十六

目割てと人テ新新のこむく山 女 千枝  
玄霏子第年藤やとくの山

書此や眼鏡入るの画をて予 今九翁 晴朝  
物百振りあやう年の子

武士乃あはりやと都の夾 一貫  
市立お人や海連の湖夜掛

明了る空に親式や初ま 小島 祇言  
手さるる鏡の影か師ま  
物や笑く免片橋の人人通

又く書きたる鶴の齧る 奇松

立事乃即門くく平の松 友竜

金おく正さる種やのさる 可英

脚もも筋 尾多あ年のさ 聞之

ち始や苔のさ 此の石 あ

とけ尾色いく千代くけく在辭 あ  
松もくくは色よ始皇は代云 一字あ 丈調  
高人乃山谷罪をちあ あ  
物くま西施く碎とくあ あ

一旦世更と退一は日ある余はあり  
京橋の由のゆき至る二世と  
片とむるる成はせしハ



まよと浮くあらし川や和手水

前江

こころし初雪の影は遠くあけはる  
よと儲けしはれまらきと自はる

長者とも實々々金人天海日

長原新田の四社ヲ  
寄とくむる



まのの蒼りあひくくくはの委

英免々

慶之

此神の意くはゆき深谷の神居

火法の久口早一神の由



白

世の人乃ちまらひも宿き神界

逾白

まをまらつ枝小餅は花吹雪ルリ

皆まら今朝は梅あきくは春

方壺

春のゆきあや馬小松と竹

慶もや心とまら玉の委

有丸

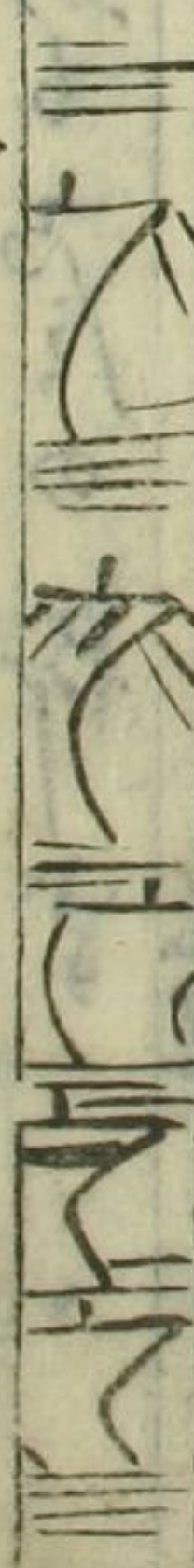
むらもはゆきとくは屋の厚中帛



梅様まらく安流は杉まら

物壺

と平の飯糰とハ馬士のあまが



え日や子寶船乃棹の明

冬扇

一筆の節定入るあきまは勢

学やま境の戸を明けの春

禪門

如在

衣食住以飽み細くくは勢



富士の仇波笑顔と江戸に初見

祇園 九鷹

若くは兒と儂け

似赤鯉と信終つとてお美事

解くるも結ぶも乃月の柳が



空つき乃んぬ影おっ— 御書牒

祇岳

金もてハ金持とてを海走の

公魚乃罾とゆける さまう那



まづの江戸あらくくも門の春 西目 竹堂

山花とて常々喝くくくく

え日の式明星を歌う季

大牛

疾くハ柳の枝も吹走もの



書娘ハ書斎とあつた春の山

寺倉

亀交

え船の氣も年ととる夜が



明くハ今朝の富士と雪ときき始

九笠

川くハ雪が富士と云配



親人の道者と茶の細節

橘友

是や此君とまぬ乃錦松

鏡を言

長波

糸深く春待くハ柳が

七九



かいふの墓をきく始一年の朝 江島 梅曉

梳篦いし西世茶々金の師走が

去ゆ戸花子湯りのやうかあけ

神鏡の笑影戸向ふ今朝の夾同 白扇

物毎小猿作るとくお栗

吾糸の意と身をさし柳が

日本は雷ハまきけ 印日陰 柳長友

急ぐ舟と扱も待るる年月意

千金の書乃華ありる扇より 田鏡

川と白家ノ遣はるる秋居



印日新のくみや四方よかきま死 橘車

七ゆさあふる落と得る

七種ノ家ゆらん夜え露の日屋 女 枝全



吉海系ゆりけ足神ハ印日が 春車

一ツ星を片けけし一年の梅



おもしる戸夜の御縁も印代の書 豆及俵 松十

鯛縁縮も満より栄乃納屋

住吉れ大路に續け松りより所満明  
と波やる位言乃紫 船



あつまるや衣名を侍勢屋神の雲 花笠  
うつくしく西の海夜の花の海



え日や赤絶乃春もの海波 尾跡  
下戸道ハ方やたり春忘

握くも養老もよ一茶の富 祇貞  
一二版夫も進むや大晦日

新川のさきもいもあち沖の妻 得舟  
四阿波納る傍や春暮る 塩

哉旦高島原

の海波納る即代や四乃春 上総姉崎  
春をまの沖や海夜乃笑あそ 祇調

あさくさ心の花も春よりてく  
いく千代も祝こあがり 春代家 全

圓と春を好くし 大云十日 祇山  
春ハ好雨の中を新柳くさる

遠きみ人も年しし 花の春 全  
ふいゆ雪より白一平の海 祇蓬

傘子ま日の暮りや糸 柳

いそくとりん中ころなちあゆみ女 梅着

家例吟

排里舎

今日すそす小雛とのめれは慶が 味風

ありあけのよせまき審みぬる午の春 竹丸

いさましく笑えけ多りあ 椿 微風

十千の峠一里よとくく控ぬ 竹丸

ひかりる借けら午の微風守 女 千花

龍門と降くり賢一午の程 味風

いふ一午も法皇子の仁徳と降くりぬりあり  
ありは法皇子乃ちあゆみと降くりぬりあり

了粒坊

系著え初日あまもとくりる女 故道

× × ×

漢の多日本の雛や御代の春 祇英

酒といふくろけあり午の春

自在庵乃門よとく一字と降くり

天地の徳と使くく 玉の春 雅徳

福とまき徳と降くり午の春

洗糸や初日あまもとくりる女 治挿

化移るる田舎娘や江戸の春 文車

早稲且乃御用口く新玉や 松泉

卯系例の細工始や海内 又刀



卯谷御連中



卯谷のまき木の家加戸の春 風祖

千本乃柱うらやな花は春 治汶

水は先吸ひあめるまゝか 秀禾



棠の籠り羽と伸き鶴戸門の松 治禾

玉も空垂し一戸屠蘇の酒 湖船

玉亦乃水家を穿き花の春 且圓

卯孫は花の笠籠戸後雪草 林松

遊茶も空の山やあけけ茶 味星

卯谷不慮の勢戸江戸の春 花遊

茶花はとら舟のこころ戸後雪草 嘉幸

山松や先日の春はこはら 巴柳

山くくはこ見と空よ松籠 祇船

卯谷乃まをともく一之の糸 玉光

車井も雀のまきありぬのま 祇幸

猪宮も歯を括らん三の秋 祇流

糸始まはけきく戸石巾 祇鳥

柳うらまを金始めらる鞠始 鞠破

忌籠て掃ふは秋千代のま 味耕

山松や子と孫系乃枝 此君

杉戸戸徳よ入卯心明の春 嵩

直るる戸柳もあはれおみまの 白鳳

有るは恵もくく初日か 龜遊

ハナぬらふふらあさりこの朝 其井

くさけ乃よいさ出ん恵言さ 祇岩

君よらつ家もいさあ今朝の春 其曉

いそ代も棠根つらー松の春 其敬

いさく戸ましく乃鏡もち 禾山

山松戸門も益く屋造 麦宇

松竹乃山むつまや明の春 雨竹

此上戸あさ垂き屋土お初日陰 吟會

山松も長命を喜戸 暮々春 葵志



多ちくさる妻小遊あさり門の春 沾蝶

君う代乃く玉早ー今朝の春 角丸

雛も産もうあさ始戸門飾 素鏡

日の恩乃さけくさー京の春 湖雲

恩澤は恵も千代のお日か 味骨

### 六中遊陣中



金色の目と清くさる福喜草 一柳

先介の継子よ蝶や花の夾 壽卜

女始や萬うさ世乃ちさーと 錦江

盃乃露や椽わくーこの朝 吐音

遊女半やうさ栗祝あさ始 遊味

今をひらく未廣くや卯旦虫 雨朝  
 吾磨蕨乃香も人知るを少りき 文水  
 一と葉と一夜も借神松飾 笈扇  
 いま寺やねるに繁く門の去 止曉  
 開く戸も此慶や揃乃卯葉も 至來  
 うち中も磨蕨も碎れを飾也 如泥  
 命毛乃續より白手始 歌鐘  
 門の春松小志分よき朝日か 紫扇  
 月雪の封ほくくや花の香 龜連  
 山吹乃先え為替亡福也 紫雪

麴坊御連中



東より申りた色や江戸の女 牛社  
 蘇麻の門の戸川くや卯手水 李嶂  
 修何暇やま川東よりまはしめ 素靜  
 え日のなうきと千代の始うる 祇桐  
 雪亡去年乃古棠と飾升 祇梅  
 卯日乾雲と出營のころみか 曉雨  
 大腕乃服紗さるきやに戸子女 祇可  
 卯雞の止う心やを教塀 溜川  
 うささのし先人名は卯まが 吾橋  
 一髪ハ卯の影をうらう昆布 市交  
 古寺の盤とハ見の飾あや 月汀  
 榊の穂えの責や雪の四季絶 紫雪

つらみ病の中は小判乃師走が 月汀

◎◎◎

約はみ子文勇む午乃喜 祇谷

◎◎◎

笑ひまゝ人よ隣首一年の言 祇

◎◎◎

新室戸正まはえ花の妻一巳亭祇濤

◎◎◎

君り妻やあまきとま原みまき始 指水

◎◎◎

人傳やうしち罪と越る文 祇

◎◎◎

松竹く千代くりまの赤の妻 祇

◎◎◎

大倉肆



のひやふお春毎や松の腰 十橋

花のおとのとこひりり年の言 心

子寶とてきてて初く難考が 心

まゝしと書り年の姿が 心

りあ妻乃くり色濃一門の松 桂舎

豆蔵の事乃とれさく種 石

え日より祖父乃各々路々 金川政

争乃終結く名も難乃日死始 祇明

千秋のまゝりや余夜の門の色 祇

嘉例之吟

る

詠くの方如松のまき 柏笥

け年の中まき妻の道 押きて

卯夢の富士のうねり 銀茶子 未賀改 時慶

収ひや又まきいん 年のまき

破魔や羽子実月の糸の花 東里

卯明もまきと降乃 宮名が

よのち乃移る時 今朝の身

實もまきと 戸庭の西の笑

美代のまき 戸門の松のまき

あまよき吐のまき のまき

大 まき 戸門の松

くおりや静りま 年の炭治牙

秋宅や卯 まきと物小卯日陰 文皎

杉形小 まき川高戸 まき

春興

る

舞 小雪回乃 あまひか 祇蘭

梅 いけくま 信名と成より

家例之祝章

る

物 毎ま 物ま と得 く 千代の女 文旅

年 ま け 誰 も 曉 き 花 の 春

何 吟 り 如 静 く 出 る り 花 の 春 成美

歳 も や う て ま る ん 年 の 茎



色 〇 〇 〇

元日とあじも言ふ一志玉山 三橋

あま一人増井の花戸をぬる

千代うけく結ぶや門の松と竹 泉夫

よつこすはあまをちよく一ち死リ

色 〇 〇 〇

詩の會の聖ハなぐし梅の庵 芦朧

あまよや向りぬを念徳宮造 柳糸

あまよや上舟を舟も静しく 義水

色 〇 〇 〇 菖寺

秋葉もゆくくく之や雅を挽 天雲

あまよや一階をき赤のとも 貞賀

十玉盤乃五玉のそはし梅の花 小瓶

あま吟りぬぬありうきまよふ代のみ 古残

色 〇 〇 〇

あまよふ一あくり肉くし後身羊 女千頂

餅花ももくハ斗乃枝折る

七のりの名ハあ神く只ササガ

空のり千代のう屋舞ふ花の妻 千喜久

静さハ所走もあまはる貴自在

組入 軸 色 〇 〇 〇

目よハ朝日耳ハ馬印ハ水 丸室

よきあまとほりあてし神水佛名

あまのりまのしを神水河原け

以三輪  
法船画



百種乃其生葉の口日始扇良

弱常も仰庭の春

祇徳

手波よみくろく帆やいく貞

あまのやも福壽は口乃白 祇扇

實のくも所衣春の弱

祇徳

春まのくも結本まのく

其二

明の葉小花のお髪か片の春 巽我

年の帆口渠も多橋の星月夜

福くく一美氏是を飾 素友

波静ハ書は外も寶 船

待候多り禄共中又福壽叶 淮岨

年も年葉をく足結ハ年の梅

初空や西くく六乃乃花 羅蘭

桐者小社セらつる幸ゆきハ

浦島う茶もハ誰と年 男

家くく一六新くく不配き福葉は芽 浦橋

和若荊男は春ハも小安り年の波

持く戸あけ玉の浦却代の春

路例

唐韻も安く年乃大和春

道廣き鶴の歩くや印笑

緗提の仗そ年れ福祿寿

具三

あまると産出ま松乃二何ら

湖時雨

新宅や古きようする年仕給

大福小於葉の香れ泉が

楠も隠むやいこの年の庭

於睡く家内安永三の朝

銀の華も陸る奥年遊心

福と壽れ住居ころや如空

吉角

子寶れ玉嚙り戸年つま終

牝の名小世の皆惚れくぬの香

安く裁ま手ハ債の林下が

其二

山椒乃香も暖ふぬるり

古掛の勢や八目纏との

神居の処所久一節ゆゑ

和合糸手も二圃市室

よみ松戸ふくく建て門の葉

餅花も萎る戸手の指より

門香や掃くも雀の落るも

節香いハみ枯あゝ如姿が

挑潮

風水

蕉雨

雪貢

葵土

唐土のそうん富士乃和笑 佳水

年くま鶴ら如影の系竹夢 梅舎

のしくと翁後ま戸和鴉 筆馬

掛乞亡年の彼哉夫樹とを 何となく治る年の深雪が

あゝあゝ人の佳事亡まり新 文泉

何となく治る年の深雪が 湖連

あゝあゝ人の佳事亡まり新 故曉

あゝあゝ人の佳事亡まり新 梅丈

あゝあゝ人の佳事亡まり新

あゝあゝ人の佳事亡まり新

あゝあゝ人の佳事亡まり新

御機嫌のる箱あつたのる士 梅丈



梅一重梅子二重のうさげく 兔朋

即ち遠く赤の満る春色 祇徳

おもしくし師走とまじり口車

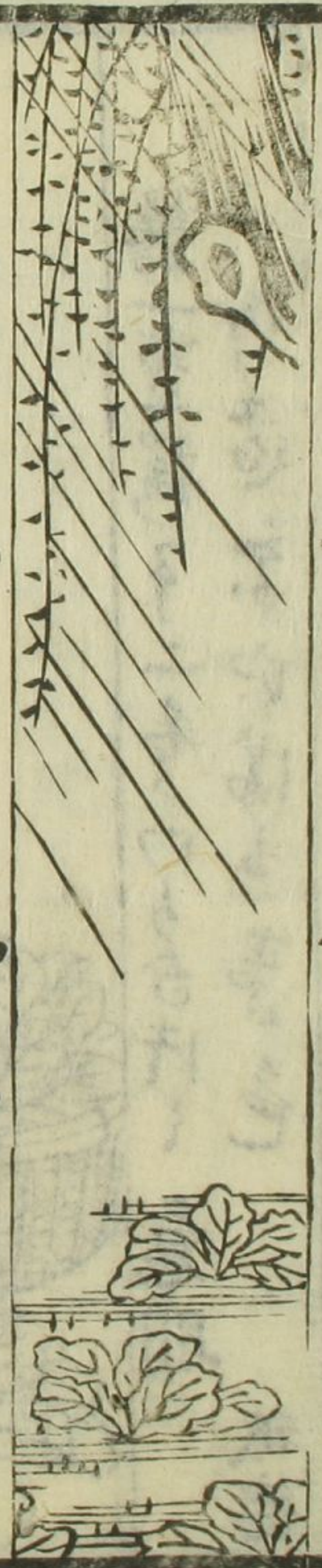


古師承乃入おあを雉子れ鳳翠

梅の柳子君乃 檜 祇徳

きつぬひ乃佃もは戸乃師をがしるる  
蝶のあはる程ハ残せよよ茶摘  
満明

柳橋ハ家終一まじ柳が  
楓竹の世後とけうふ作是が  
全 亀位



もつ種をハるる解る柳の形  
福井乃志めくちりよ一年の雲  
摘はくよまを朝日れあふか  
明くも亦唐子嵐も春日代  
素英 昇鯉

雨とあはるるとあはれ柳の南  
幸乃雪の明く一年一夜  
梅のや雀とあはる障子紙  
之は乃上りめえくく忘  
女 豆雨 松牛



雪とあはるる社頭の梅  
神馬幸せく機嫌よき妻  
富昂 成信

音興

くく心夢や若梅と事も春の花

樓川

あけ雪星やふ魚と道

雞口

埋せ井や人の墜たの柳あり

在轉

雪やあま子生く雪原も有

小知

あま子あまや夕影ふも柳の魚

田女

只ひく見と一けや雪の草

金洞

日の介小もの雪はる(梅の宿

笑天

音望

雉子れ春や雪はる(梅の宿

祇徳

音興

長閑や雪はる(梅の宿

撰羽

音望

夏海乃雪も手と大梅日

月夜

捨一世や年のまういも廿門扉

画鏡

音望

乃く此枝折や崖峰も郊程

連破

乃く乃是く老と如く一の幸

流窗

月ほと小夜のまういも大梅日

長苔

こくくハ白とおそくきくはれハ

卯年や春雪乃吟の道

窗雪

大の字とけくあやや年のま

馬遊

雪ふての序終ハ花を二年乃

百流

後書ゆ沖ふたりぬ古

卓二

録倉

と神追の師走のころをみ車 尾谷

三層石も田毎の月を餅せ延 西谷

梅傍春の通神と早年の罪 養谷

丸くして意方よ當る福ハ内 三河山

来一春と夏ぬうりくる年惜 以文

美石の流壺をさり糸 洗 芝延

大くや道よ苦のちき通す下 蓮郷

走り年よ追つけ帆愈船 爲一

掛るや年乃大路と三階の杉 聖火口

けいゑきてまきらの梅を一二三人 鵬羽

山里や僧を垣越ゆる年の暮 紀迪

とけいしちふ片もる雪の花の矢 令堂

よ水とせくくや年の井戸系碗 泉之

子曰はとめていしく神千代の女 楚楓

さゆくも秋入るる年や後 徳英

室屋の妻もあがりりる年 三井

ふらふ年ふみ字申つる家や古塵 榮陽

云平も酒のおもやとくし子終 龜丈

さくろく雪ふるの便やうらむ業 白柳



伸あふる鶉や初日乃小杉系 樓堤

年の市秋の本の寒と又穿ん

高興

峯月菴

池解く星もやとく夜の梅 祇高

凍解小足袋の毛くゆき 芦風

東屋つゆゆき遠く寒空雀が 満破

頭巾着く老も摘くや花のつが 祇嵐

風のとといりぬ梅乃白ひるが 祇若

渡ち進し春や梅為物 東志



解弱く氷あつや桑山奈 五百里

窓吹く春先白く梅乃 如州

梅乃やゆき 破毒此来如 祇帆

北山え高し層乃行来か 嵐什

面名一臺梅梅のあまら 吳井

雪空旭と解く葉の松 瀧吞

刺しめり春心夕アおこは月 喬谷

寒く雪舞とリ老や春寒痛 尤亮



梅乃やまの道志き 梅高山祇竹

せいほ

春のほろや梅網・梅網 芦風







川とれあてはるまはあが	満洲
控似名の以多越るる年の業	赤巻
髪髪あてくも妻待一夜が	女多
光陰乃矢よふこく年業	女井
縮ます新屋も年の尾先が	氣付
五世極きう一あてく年業	号井
くは屋や年の以くよう書	津吉
二日月とえくして屋の之屋	吉亮
とら老己の尾も年の尾が	吉亮
皆津の物とえくる年の市	津亮
世や師を早き女乃弟人ま	津亮
かき書るる年一字も	机
	津帆

四十五

守年

氣あてく子やう勢りり年業	存義
いれくせく書むと年業	買明
市にそえ八百は五元書	樓川
治新中氏千銀りの大あ口	百萬
夫と今千二夜買ふあ口の書	雞口
世返り乃峰と師を早き女乃弟	祇魚
か後川えさきりくや尼拂	多安
月雪北あもあり年業	温克
ぬるき陰世く月くきあく	在轉
ぬるき陰世く月くきあく	少知
大く乃透は山よあてく書	田女

四十六

年とれを礎とをらた	仲の船	秀國
空糸くくくくくく	二斗の葉	可因
溝はとすー	夜もあうくーのさ	常仙
いふしや寺ハ	初化の門	節
くくくくくく	や源起の朝氣	宗梅
煤掃ハ	明もつじー	きト
赤糸糸	餅花	豆りりり
月とら	乃	嵐の葉
大ら十日	唇の上	乃
之の糸	の捨	亦あり
くくくく	小島	島村
糸の字	れも	午も

白頭 笑天 保牛 留倫 自在菴

追加

年の布	籠	さ	面の皮	穿	りん	塵匣
糸くく	く	く	く	く	く	文奩
追加						天香屈
くく	く	く	く	く	く	麗々
降く	く	く	く	く	く	深雞
同ま	無					
観音	乃	推	言	る	一	布
ら	い	あ	ま	未	廣	う
わ	ら	く	め	く	く	香
十	を	成	登	乃	玉	の
お	も	く	く	く	く	く

祇存 玉志 五回 松武 和扇



聖堂一侍皆有少也早業第

祇徳

孝孝 春春 遊遊

成義

唐唐 家家 多多 々々 々々 々々 借借 切切 者者 此此 津津 義義

治采

此此 名名 やや 中中 半半 日日 際際 乃乃 進進 ささ らら 々々

祇徳

リリ 念念 守守 之之 印印 立立 ちち 様様 のの ちち らら 々々 々々 々々 庭庭 訓訓 々々 々々 々々 比比 同同 魚魚 々々

人五

甲午彌生吉日

彫工

荒木又刀

